

八幡浜市学校再編整備検討委員会 議事要旨

(第2回会議) 【公開用】

日時：平成28年7月25日(月) 19:00～20:45

場所：保内庁舎3階第3会議室

欠席委員：山口委員、上野委員

事務局：教育長・教育指導主幹・学校教育課長・同補佐

○会議次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 適正規模の基本的な考え方について
 - (2) 市の目指す現実的な学校規模について
 - (3) 次回会議の日程及び議題について
3. 閉会

◎ 討議概要

○開会(19時00分)

議事前に、委員長が本日の会議録署名人に日出山委員と人見委員を指名する。

委員長から前回会議内容、最終的な答申に向けて検討すべきことについて、改めて説明がある。

また、この学校再編整備検討委員会(以下、検討委員会)では、市内の学校の在り方を考えていただくのだが、学校統合だけのことを検討するのではないことを確認する。

○議事経過

- (1) 適正規模の基本的な考え方について
- (2) 市の目指す現実的な学校規模について

(事務局説明)

- ・最終的な答申の全体的なイメージをつかんでいただくため、第一次八幡浜市学校再編整備実施計画答申書の内容を説明し、答申書の構成や盛り込む内容(議論すべき内容)を簡単に説明する。

(委員長)

市内小・中学校の現状について確認する。

- ① 複式学級を有する小規模校(小学校)の現状について

デメリット

- ・なるべく複式にならないよう配慮しているが、教員の出張等により2～3学年が合同で

授業をせざるをえないときがある。国語と算数の一部は、どうしても一人の教師が2学年を教える状況になっている。

- ・ 教員は、2学年分のしっかりした授業準備が必要となる。また、極力複式にならないような校時としているため、空き時間の確保が難しく、教員の負担が大きい。
- ・ 小規模校のため、集団での授業ができず、多様な考えが出にくい。遊びの場面でも集団での遊びの経験ができない。

メリット

- ・ 個々に応じたきめ細かい指導ができる。
- ・ 挨拶がよくでき、皆で育ちあう環境が整えやすい。
- ・ 伝統行事や地域産業を取り入れた、地域の特色にあった学校づくり・学校運営が可能。

② 学級・学年当たりの児童生徒数による影響について

- ・ 市内学校のうち、複式学級がある学校は真穴、川上、双岩の3小学校である。
- ・ 各小学校を比べた時、学級数は同じでも児童数には大きな開きがある。
- ・ 1学級が40人近い学級の経営は大変厳しく、担任には優れた指導力が求められる。
- ・ 中学校では、部活動において単独チームを組むことが難しくなり、保護者からも心配の声が出てきている学校がある。

(事務局説明)

- ・ 資料1-7「学級編制及び教職員配置の基準について」、資料1-8「学校規模についての法令上の定義」について説明。複式学級編制の考え方、学校規模については、学校教育法施行規則では12学級以上18学級以下を標準としていることを説明する。
- ・ 学級編成について、小学校は、1～4年生は1学年36人以上で2学級となり、5・6年生は1学年41人以上で2学級となることを説明する。
- ・ 市が目指すべき現実的な基準について議論する。(発言内容については別に記載)
- ・ 今回の意見等を基にそれぞれ考えをまとめ、次回検討委員会で市の目指す現実的な学校規模について意見をまとめることとする。

(3) 次回会議の日程及び議題について

- ・ 次回、第3回会議を8月30日(火)午後7時から保内庁舎第3会議室で行うことを決定する。
- ・ 4回目以降の開催時間について、次回協議することとする。

(教育長)

統合についての説明会に出かけると、「統合せざるを得ない。統合する方がよい。」という考えの一方で反対意見が多いのも事実です。保護者が一番気にされるのが通学支援の

ことです。そして、小さい学校から大きい学校に吸収される形の統合ではなく、市全体として新しい学校を作ってほしいという意見も聞きますし、統合を繰り返すことがないようにしてほしいという話もありました。

皆様の総意でよい会となりますように、今後ともよろしく申し上げます。

○閉会（20時45分）

□ 委員発言（同種の発言はひとつに要約しています）

- ・ 市の現状を的確に理解したうえで、市の活性化、定住人口の増加策を考えないと市の人口、子どもは増えない。本市の旧市内人口は、10年前と比べちょうど半減している。今後も減少していくことが予想される状態で、標準的な再編を考えても数年後改めて再編しないといけない状況になると思う。

極端かもしれないが、小・中学校をそれぞれ1校にまとめ、教育の質の向上を図ることを考えてはどうか。それによって市の活性化につながることを期待できる。

学校を統合すると学校が遠くになるところは出てくるが、送迎をすれば問題ないと思う。

- ・ 本市は、統合をすることができない学校（離島等）はないと思うので、その点では恵まれていると思う。
- ・ 狭い面積であることを逆手にとって考えると、「通学困難地域はほぼない」と考えられるため、学校統合は考えやすい。
- ・ 市内に小・中学校は1校でいいという意見が出ていたが、ともに2校あれば、クラス編制・部活動も成り立つのではないか。市内で競い合うことも大切だと思う。
- ・ 少人数で複式学級を有する学校のメリット・デメリットを聞いて、矛盾を感じる。やはり一定規模以上の学校も統合することも含め、全体的な学校再編を考えなければいけないと思う。
- ・ 島根県海士町では、高い教育を受けられる町として人口が増加している。先生方の質の高い指導を期待している。
- ・ 120～130名の生徒数を維持するのではなく、2～3学級編制ができる学校規模を考える方がいいと思う。
- ・ 中学校については、せめて3校以上は保てないものだろうか。高校の数以上はほしい。
- ・ この検討委員会で検討する学校再編は、何年後を見据えたものを考えるのだろうか。
→（事務局回答）5年後の具体的な学校数、10年後は目標とする学校数を考えていただきたい。
- ・ 本市人口は、旧保内より旧八幡浜のほうが人口減少が激しい。そのことも踏まえて考えるべきだ。

- ・ 小学校と中学校は考え方を考える必要があると思う。小学校は、前回通りの1クラス20人程度の1学年2学級、下限を120人としてはどうか。
 - ・ 小学校については、なるべく実際の生活に近いところに学校があったほうがいいと思う。学級経営を考えると1学級20～25人が効果的な指導ができると思うし、少ない人数でのよさもあるため、一概には言えない。
 - ・ クラス替えができる規模で考えるべきだ。少人数では人間関係が固定化してしまい、競争心を育てることが難しい。
 - ・ 学校としては、1クラス20人くらいの学級が一番経営しやすい。生徒指導を考えると1学年2クラス以上はほしい。
 - ・ 5年後だけでなく、10年後につながる学校再編となるようにしてほしい。統合や分割が繰り返されることは避けたい。事務局の考えも聞かせてほしい。
- （事務局回答）学校規模・学級編成について、中学校は1学年3学級、1学級30人、また、小学校は1学年1学級、1学級20人程度が適当だと考えている。
- ・ 自分は生徒数の多い教育環境で育ってきているため、人口推計を見ると将来的には中学校は1校にしないといけなのではないかと考えている。しかし、ひとつにまとめてしまわない方がよいという考えも聞きたい。
 - ・ 文部科学省の基準があるのは分かるが、保護者の立場で考えると、現場の先生が指導しやすい規模にすればいいと思う。学校数を何校にするかの議論ではなく、市内で子育てしやすい、暮らしやすい形にすればいいと思う。暮らしやすいのであれば、複式学級が存在してもいいのではないか。
 - ・ 今まで学校統合していく中で、賛成意見ばかりではなかったと思う。そこで出てきた反対意見がどういったものがあったかをお示しいただき、参考としたい。
保護者や地域からの反対意見は、学校統合することで暮らしにくくなるからだと思うため、学校再編を考えるにあたって、問題点を理解し、解決策も考えておかなければならないと思う。
前検討委員会での答申書中の「学校再編を行う際に配慮すべき事項」について、厚みを持った答申とするべきだと考えている。
 - ・ 会議をもう1回増やして、もう少し皆さんの話を聞く機会を持つべきだと思う。

上記のとおり八幡浜市学校再編整備検討委員会（第2回）の議事経過及びその結果を明確にするためにこの議事要旨を作成し、出席者2人が署名する。

平成28年8月30日

署名人 _____

署名人 _____